

問1 日本銀行には3つの大きな役割がありますが、そのうちの一つについて「国庫金の受払事務や、国債の発行・管理といった、国の資金を取り扱う業務」を指す言葉として、最も適切なものはどれですか。 (2018年 大分県公立入試 類似)

1. 政府の銀行                      2. 銀行の銀行                      3. 発券銀行                      4. 市民の銀行

問2 不況の際、日本銀行が市場の通貨量を調整するために行う「買いオペレーション」の説明として、最も適切なものを選びなさい。 (2023年 群馬県公立入試 類似)

1. 日本銀行が一般の銀行から国債などを買い取り、世の中に出回る通貨量を増やす                      2. 政府が所得税の増税を行い、景気の過熱を抑制する                      3. 政府が公共事業への支出を増やし、社会全体の景気を刺激する                      4. 日本銀行が一般の銀行に国債などを売却し、世の中に出回る通貨量を減らす

問3 景気が過熱して物価が上がりすぎている局面において、日本銀行が景気を安定させるために行う「公開市場操作」の説明として適切なものはどれですか。 (2018年 大分県公立入試 類似)

1. 日本銀行が一般の銀行から国債を買い、市場の通貨量を増加させる                      2. 日本銀行が一般の銀行に国債を売り、市場の通貨量を増加させる                      3. 日本銀行が一般の銀行に国債を売り、市場の通貨量を減少させる                      4. 日本銀行が一般の銀行から国債を買い、市場の通貨量を減少させる

問4 現代の経済において「直接金融」が重視される背景として、その仕組みの性質を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2022年 岩手県公立入試 類似)

1. 日本銀行が景気調整のために、市中の金融機関に対して資金を貸し出す際の金利を操作する仕組みであること。                      2. 銀行が倒産した場合でも、預金保険機構によって一定額の資金が確実に保護される仕組みであること。                      3. 投資家が企業の将来性や事業内容を直接判断し、自己責任でリスクを取って資金を供給する仕組みであること。                      4. 企業が返済不要な資金を銀行から無利子で借り入れることで、経営の安定を図る仕組みであること。

問5 物価が継続的に下落するデフレーションが発生し、景気が後退している状況において、日本銀行が行う「公開市場操作（買いオペレーション）」の仕組みと目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2017年 茨城県公立入試 類似)

1. 日本銀行が市中銀行へ有価証券を売却し、市場の通貨量を減らすことで、物価の過度な上昇を抑える。                      2. 日本銀行が市中銀行から有価証券を買い入れ、市場の通貨量を増やすことで、経済活動の活性化を図る。                      3. 日本銀行が市中銀行から有価証券を買い入れ、市場の通貨量を減らすことで、企業の過剰な設備投資を抑制する。                      4. 日本銀行が市中銀行へ有価証券を売却し、市場の通貨量を増やすことで、消費者の購買意欲を高めて物価を安定させる。

問6 政府と日本銀行は協力して景気の調整を行っています。日本銀行が景気後退期に行う金融政策として、正しい内容はどれですか。 (2016年 佐賀県公立入試 類似)

1. 公共事業への支出を増やし、失業者を雇い入れることで国民の所得を直接的に増やす。                      2. 市場から国債を買い入れ、世の中の通貨量を増やすことで金利を下げ、企業が資金を借りやすくする。                      3. 日本銀行が直接、すべての民間企業に対して製品の価格を下げるよう命令を出す。                      4. 所得が高い人ほど高い税率を課す累進課税制度を強化し、社会の貧富の格差を是正する。

問7 金融の仕組みにおいて、日本銀行と地方銀行などの民間銀行の役割を比較したとき、地方銀行の業務内容として最も適切な説明はどれですか。 (2016年 愛媛県公立入試 類似)

1. 「銀行の銀行」として、他の金融機関に対してのみ資金の貸し出しを行う。                      2. 家計から預金を受け入れ、それを原資として企業などに資金を貸し出す。                      3. 政府の資金を管理し、国庫金の出し入れを行う。                      4. 紙幣（日本銀行券）を発行し、通貨の流通量を調整する。

問8 日本銀行は2024年7月に、偽造防止を目的として20年ぶりに新しい日本銀行券（紙幣）を発行しました。紙幣には江戸時代の藩札から続く「すかし」の技術や、明治時代以降から続く肖像画の採用など、高度な技術が盛り込まれています。このような紙幣の発行や、政府の資金の管理を行う日本銀行に関する記述として、誤っているものはどれかを選びなさい。 (2024年 宮城県公立入試 類似)

1. 日本銀行券を発行する唯一の機関としての役割（発券銀行）を持つ。                      2. 景気を調整するために、世の中に出回る通貨の量を調節する政策を行う。                      3. 国の予算案を作成し、予算をどのように使うかの計画を決定する。                      4. 政府が納めた税金の管理や、政府からの支払い事務を行う（政府の銀行）。

問9 金融の仕組みにおいて、銀行を通じた融資（間接金融）と比較した際の「直接金融」の特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2018年 長崎県公立入試 類似)

1. 銀行が倒産した場合でも、企業への資金供給が止まらない仕組みである。                      2. 投資家が銀行に預けた預金が、銀行の判断によって特定の企業へ貸し出される仕組みである。                      3. 政府が税金として集めた資金を、公共事業のために特定の企業へ配分する仕組みである。                      4. 企業が株式や債券を発行し、証券市場を通じて投資家から直接資金を調達する仕組みである。

問10 家計などの余剰資金を銀行が預かり、それを企業などの資金不足の主体に貸し出す「間接金融」の仕組みにおいて、銀行が預金利子率を貸し出し利子率よりも低く設定している理由として、最もふさわしい背景はどれですか。 (2015年 佐賀県公立入試 類似)

1. 預金者への利子支払いを抑え、貸し出しによる利息収入との差額を銀行の運営費用や利益に充てるため。                      2. 日本銀行による金融政策により、すべての銀行の預金利子率を貸し出し利子率より下げることが法律で強制されているため。                      3. 預金者が銀行に資金を預けること自体が投資であり、元本保証の対価として利子を低く抑える契約が一般的だから。                      4. 不景気の際に、企業が資金を借りやすくするために、預金者から徴収した手数料を利子補填に回しているため。

問11 不況の際、日本銀行は景気を刺激するために、一般の銀行などの金融機関が持っている国債を買い入れる操作を行います。この操作が金融市場に与える影響と目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 鳥取県公立入試 類似)

1. 金融機関が持つ資金を増やし、企業や個人への貸し出しを促すことで、景気の回復を図る。                      2. 金融機関から資金を吸い上げ、通貨の流通量を抑えることで、物価の急激な上昇を抑制する。                      3. 政府の歳入を増やすために国債を現金化し、公共事業の予算を確保する。                      4. 日本銀行が直接企業に資金を貸し出し、設備投資を促進させることで、失業者の減少を図る。

問12 景気変動に対応する日本銀行の役割についてまとめた資料において、不景気時における「日本銀行」と「国債」の関係について正しく述べているものはどれですか。 (2020年 秋田県公立入試 類似)

1. 日本銀行が民間金融機関から国債を買うことで、通貨量を増やす。                      2. 日本銀行が民間金融機関から国債を買うことで、通貨量を減らす。                      3. 日本銀行が民間金融機関に国債を売ること、通貨量を増やす。                      4. 日本銀行が民間金融機関に国債を売ること、通貨量を減らす。